

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503544		
法人名	社会福祉法人 パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 参番館		
所在地	札幌市白石区平和通2丁目南6-28 (電話) 860-1702		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月15日	評価確定日	平成19年11月7日

【情報提供票より】(19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤 人, 常勤換算16人	

(2) 建物概要

建物構造	造り		
	4階建ての	3~4	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費20,000円 暖房費5,000円(11~3月)
敷金	○有(60,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無
食材料費	朝食	330 円	昼食 450 円
	夕食	413 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 1,298 円		

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18名	男性 7名	女性 11名
要介護1	1	要介護2	4
要介護3	9	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 84歳	最低 72歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白石中央病院 さくら歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、利用者のレベルに合わせ、希望によりできるだけ多く外出ができるように支援している。事業所の年間計画の中に動物園など屋外のプログラムを多く企画し実施している。特に同系列のグループホームと合同で利用者を連れての、1泊温泉旅行は好評で利用者に喜ばれている。建物は寮の改築型であるが、広い居室が利用者の生活にゆとりを生み出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画に関する項目については、計画作成者の交代により改善がなされた。また、職員の態度や緊急時や感染症などの取り組みはホーム長の交替により概ね改善された。さらにケアの向上と地域密着型サービスの定着化などの課題への取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で評価項目について検討し、即改善できる点は取り組みを開始している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営懇談会の名称で数回開催されているが、家族にはどなたでも参加下さいと呼び掛けている。内容は報告が多く、ホームの運営やケアサービスに関する意見までには至っていない。家族会とは趣旨が異なるので、区分けて開催されることが望ましい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 「意見箱」を玄関に設置しているがほとんど意見はない。家族が面会に来たとき、意見や要望を聞いて対応し、運営に反映するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは、商店街地区にあり、商業地域の町内会に加入し、行事の協力や参加を試み、地元の人々との交流など、取り組みを実施している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニットの玄関に理念の掲示はあるが、パンフレットや、規定には記載がない。また、地域との係わりを重視した地域密着型としての理念は含まれていない。	○	地域の中で暮らすことを含めて事業所独自の理念の作成に取り組むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示されている理念を共有し、日常的に話し合い、実践に向けて具体化することを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	商業地域の町内会に加入し、行事の協力や参加を試み、地元の人々と交流が図られるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員が関心を持ち、内容の意義を話し合い、具体的に改善できるところは即対応し、積極的に取り組んでいる。		

札幌市 グループホーム ハートの家 参番館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の名称を運営懇談会として家族の自由な参加を呼び掛けている。出席者が少なく、意見はあまり出ていない。	○	出席者の範囲を検討し、積極的な意見交換の場として会議を進め、出された意見や要望をサービス向上に活かして頂きたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所や社会福祉協議会とは、連絡を密にし、利用者本意のケアサービスに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホームだより」を発行して利用者の生活ぶりを報告している。また、金銭の報告も定期的実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置している。面会時に話し合い、貴重な意見は職員間で検討し、ケアサービスなど運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去に職員の異動は少なく、代わったときは利用者の動揺は見られなかった。今後も馴染みの関係を大事にしながら傷つけないように配慮するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では毎月1回勉強会の名称で、職員研修を定例化して実施している。さらに、法人全体の研修も設定され、外部の研修へも参加可能で、万遍無く職員が学べるような仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にグループホームが三箇所あるので、合同の会議を毎月開催している。また、利用者とともに合同の旅行を実施している。日常的に交流の場を多くもち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームに入所に至るまで利用者と家族に見学はもちろん、納得の行くまで話し合いをして馴染みの関係作りができるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内の日常的な家事や外出など、職員と上下の関係でなく、横の関係で一緒に過ごす時間を重視し、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望の把握に家族の協力があり、さらに利用者の日常行動からも思いを把握して、本人本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット内で勉強会やケア検討会議など、職員は全員で協力して意見を活発に出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月ごとに見直しをし、現状に即した介護計画となるように家族や関係者と話し合っている。又、急な変化には即対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の掛り付け医が事業所の協力医でないとき、通院介助を行なっている。また、利用者や家族の希望で、理容室や美容室への外出支援もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院は、事業所の近くにあり、月に2度往診をしている。いつでも気軽に話せる関係となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同系列の老人ホームに看護師が常駐し、協力体制を組んでいるが、利用者の重度化については、指針を作り、看取りの同意書を取り交わしている場合もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを考慮し、言葉掛けなど、配慮をしている。「おたより」などの掲載には、了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の日課として、体操をしている。利用者一人ひとりの希望を大事にし、外出などは天候など考慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓テーブルを囲み、利用者と職員はお互いに家族のように、話したり、笑ったり、なごやかに食事を楽しんでいる。また、配膳や片付けなども一部の利用者であるが協力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	建物は、寮を改築しグループホームとしているので浴室の設置などの困難な点も見受けられるが、利用者には週2回を目途に入浴できるように支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性の利用者にとっては、家事の役割など、能力や特技を活かした取り組みをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周辺は商店街で日々の買物などできる限り利用者の希望に添って外出を多くしている。さらに年間行事計画の実施に努力し、外出支援は十分対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の玄関は有料老人ホームと一体化して、事務所と向き合い、職員の目線内において開放的である。日中は鍵を掛けていない。夜間のみ施錠している。		

札幌市 グループホーム ハートの家 参番館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や災害のみならず、種々のマニュアルが整備されている。また、1年に2回避難訓練を実施して、安全面に地域の協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の作成は本部の栄養士のもとで作成されている。水分や食事量などの記録を個別に記載している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は寮として建築されたのをグループホームとして改造したもので、広さや間取りに職員は工夫をし、居心地の良い空間づくりを取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は広々とし、馴染みの家具などを持ち込み、安心した住まいとなっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。